

日本女子大学大学院 成績評価・修了要件・授与学位

<成績評価>

授業科目の成績評価は、次のとおりとし、合格（A+、A、B、C）及び不合格（F、X）とする。

可否	合格				不合格	
評価	A+	A	B	C	F	X
評点	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下	評価なし
評価の基準	到達目標を十分に達成できている非常に優れた成績	到達目標を十分に達成できている優れた成績	到達目標を達成できている成績	到達目標を最低限達成できている成績	到達目標を達成できていない成績	評価なし

この成績評価は2013(平成25)年度入学者から適用し、2012(平成24)年度以前の入学者については、なお従前の例による。

<修士課程及び博士課程前期の修了要件>

修士課程又は博士課程前期に2年以上在学し、履修授業科目について32単位以上（家政学研究科住居学専攻は36単位以上）を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査及び最終試験に合格した者には、その専攻するところに従い、修士の学位を授与する。ただし、在学期間に関しては、優れた業績を上げた者については、大学院に1年以上在学すれば足りるものとする。

<修士の学位の専攻分野の名称>

本学において授与する修士の学位の専攻分野の名称は、次のとおりとする。

研究科	専攻	修士の学位の専攻分野の名称
家政学研究科	児童学専攻 食物・栄養学専攻 住居学専攻 被服学専攻 生活経済専攻 通信教育課程家政学専攻	家政学 家政学 家政学 家政学 家政学 家政学
文学研究科	日本文学専攻 英文学専攻 史学専攻	文学 文学 文学
人間社会研究科	社会福祉学専攻 教育学専攻 現代社会論専攻 心理学専攻 相関文化論専攻	社会福祉学 教育学 社会学 心理学 文学
理学研究科	数理・物性構造科学専攻 物質・生物機能科学専攻	理学 理学

<博士課程の修了要件>

1. 博士課程に5年（修士課程又は博士課程前期に2年以上在学し、当該課程を修了した者にあつては、当該課程における2年の在学期間を含む。）以上在学し、履修授業科目について32単位以上（本学家政学研究科住居学専攻修了者については36単位以上、理学研究科は55単位以上）を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格した者には、その専攻するところに従い、博士の学位を授与する。ただし、在学期間に関しては、優れた研究業績を上げた者について、研究科委員会が認めた場合には、この課程に3年（修士課程又は博士課程前期に2年以上在学し、当該課程を修了した者にあつては、当該課程における2年の在学期間を含む。）以上在学すれば足りるものとする。
2. 修士課程及び博士課程前期の修了要件のただし書の規定による在学期間をもって修士課程又は博士課程前期を修了した者の博士課程の修了の要件については、前項中「5年（修士課程又は博士課程前期に2年以上在学し、当該課程を修了した者にあつては、当該課程における2年の在学期間を含む。）」とあるのは「修士課程又は博士課程前期における在学期間に3年を加えた期間」と、「3年（修士課程又は博士課程前期に2年以上在学し、当該課程を修了した者にあつては、当該課程における2年の在学期間を含む。）」とあるのは「3年（修士課程又は博士課程前期における在学期間を含む。）」と読み替えて、前項の規定を適用する。
3. 1. 及び2. の規定にかかわらず、学校教育法施行規則第156条の規定により、大学院への入学資格に関し修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者が、博士課程の後期3年の課程に入学した場合の博士課程の修了の要件は、大学院に3年以上在学し、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格することとする。ただし、在学期間に関しては、優れた研究業績を上げた者については、大学院に1年以上在学すれば足りるものとする。

<博士の学位の専攻分野の名称>

本学において授与する博士の学位の専攻分野の名称は、次のとおりとする。

研究科	専攻	博士の学位の専攻分野の名称
文学研究科	日本文学専攻	文学
	英文学専攻	文学
	史学専攻	文学
人間生活学研究科	人間発達学専攻	学術
	生活環境学専攻	学術
人間社会研究科	社会福祉学専攻	社会福祉学
	教育学専攻	教育学
	現代社会論専攻	学術
	心理学専攻	心理学
	相関文化論専攻	文学
理学研究科	数理・物性構造科学専攻	理学
	物質・生物機能科学専攻	理学